

ぎょうだの会社を ローズアップ!!

東洋測地調査株式会社

インフラ整備を支えるプロフェッショナル



気が付くといつの間にか新しい道路や橋などができていることがあります。今回紹介する東洋測地調査株式会社は、そうした道路や橋を作る前の土地の形状計測や調査、配水管設計など、公共事業を専門的に扱う「インフラを支える測量」事業を主にしている企業です。測量とは道路の長さや境界を計測するものです。道路や水道などの設計や施工管理するためにはまず現地の正確な数字を把握することが重要です。同社では、この重要なインフラ整備の基盤となる業務を4代目となる松村裕樹さんをはじめわずか16人の少数精鋭で担っています。松村さんの祖父は埼玉県職員として土木事業に関わっていましたが、昭和54年に心機一転起業し、最初は本庄市に会社を構えました。昭和60年には行田市で需要が高まると考え、本社を行田市に移転。同年に本庄支店を開設し、平成13年から熊谷支店、寄居営業所、加須営業所と次々と事業を広げました。

同社の強みはオールマイティーに対応できること。設計前の測量や地質調査だけでなく、道路や河川、上下水道の配管設計、道路拡幅や新設により所有者が移転する場合の補償額の算定を行う物件補償調査も手掛けるなど、普通であれば各会社に頼まなくてはいけないところを1社で幅広くカバーすることができ、さらにドローンやレーザー扫描仪を使用し、空撮や三次元データの取得にも力を入れています。工業に精通した松村さんの視点で最新機器を導入し、以前は1週間掛かった現場作業が半日で終わることができるようになるなど、業務の効率化やDXの推進を進めています。松村さんは「何もないとこから道路や橋ができること」の面白さ、完成した道路や橋を使用する人たちの感動する姿が嬉しいと、そのやりがいを語ります。「新しくできた道路の開通式前に、子どもたちが道路に描いた絵をドローンで撮影した時に、子どもたちがとても喜んでる姿を見て、こちらまで嬉しくなりました」と話す松村さんの優しい笑顔には仕事愛が垣間見えます。今後については「若手社員の育成にさらに力を入れていきたい」と意気込みを聞かせてくれました。今年も若い社員が合格率10パーセント台の国家資格に合格するなど成果を挙げています。同社はこれからも専門知識を持つ優秀な社員と共に、測量から設計、施工管理までのトータルシステムで、公共事業に関わる社会のインフラ整備に貢献していくことと決まっています。

会社プロフィール

代表取締役 **松村 裕樹**

【事業内容】 測量、地質調査、建設コンサルタント、補償コンサルタント、UAV 事業

【所在地】 持田 2417-5

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課(内線318)までお寄せください。

来て! 見て!

図書館

開館時間
午前9時～午後7時

休館日

10月1日水～3日金・6日月・14日火
・20日月・27日月・31日金、
11月4日火・10日月

※休館日の図書返却はブックポストをご利用ください。

●図書館●
佐間3-24-7(「みらい」内)
TEL:556-4227
FAX:555-3770

秋の読書週間特別映画会

▶日時 11月3日(月)午後1時30分(午後1時10分開場)
▶場所 「みらい」映像ホール
▶作品名 「すみっこぐらし ツギハギ工場のふしぎなこ」(上映時間69分)
▶定員 70人(先着順)

市民リサイクル文庫

不要になった本を、読みたい方に提供する「市民リサイクル文庫」を開設します。不要な本(雑誌を除く)がありましたら、次の期間内に図書館にお持ちください。

▶期間 11月1日(土)～16日(日)
▶場所 図書館入口
▶その他 雑誌や経年劣化が著しい本や、カビ・汚れなどの状態の悪い本はご遠慮ください。期間終了後、残った本は図書館で処分します。

マナーを守って図書館を利用しましょう

8月中旬に図書館で所蔵している新聞の一部記事が切り取られる事案や、新聞が紛失する事案が発生しました。また、読み終わった新聞や雑誌が所定の場所に戻されていないことも見受けられます。多くの方が利用する大切な資料ですので、以下のマナーを守ってご利用ください。

- ・読み終わった新聞や雑誌は必ず所定の場所に戻してください。
- ・当日の新聞や最新号の雑誌は多くの方が利用できるよう、1紙(誌)ずつ閲覧し、長時間の独占はご遠慮ください。他の利用者のために譲り合ひましょう。

ぎょうだ電子図書館 読み放題コンテンツに「るるぶ」が登場

ぎょうだ電子図書館(<https://web.d-library.jp/gyoda/>)
10月1日(水)から、「るるぶ」人気エリアパック(JTBパブリッシング)が読み放題コンテンツに登場します。埼玉を含む近隣や京都・奈良・北海道などの定番の旅行先25点をいつでも読むことができます。今まで予約を入れて待っていた方も順番待ちなしで読むことができます(要ログイン)。1年間の期間限定となります。
※今まで貸し出ししていた「るるぶ」のコンテンツとは別のものです。

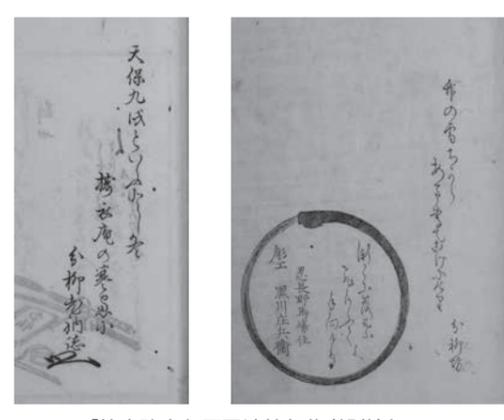
行田歴史系 379 資料がかる行田の歴史 79

南河原の俳人・松本分柳

これやこの案山子の笠もなれの果

右の句は、南河原出身の俳人、松本分柳(1771～1843年)が古希を記念して天保12(1841)年6月に詠んだものです。今回は南河原が誇る俳人分柳の足跡を紹介いたします。

分柳の古希賀集「さるをかせ集」に収められた自序によると、分柳は天明年間(1781～1789年、熊谷の修験者で俳人の野口雪江(1732～1799年)に入門しています。雪江は「寛政の三名筆」としても著名な人物です。雪江の



「竹内路白七回忌追悼句集(部分)」
(個人蔵・当館寄託加藤家文書)

没後は、京都で芭蕉堂を営む金沢出身の高梨蘭更、江戸に戻ると朝日庵鷹一にそれぞれ師事し、分柳は各地で俳諧修行を重ねていたことが分かります。天保9(1838)年冬には、長野村馬場の彫工黒川庄兵衛と分柳らが中心となり、竹内路白の七回忌に故人の思い出と俳句を寄せ、追悼句集を仕上げられています。路白の本名は竹内作右衛門直道で、忍藩城付四組のうち谷郷組の割役名主を務めた人物です。分柳の居村である南河原村をはじめ犬塚・馬見塚・中江袋各村も谷郷組に属していましたので、彼らは公私ともに交流のある者同士でもありました。

この句集の巻頭には、忍藩松平家の侍医岸田米山(儒者芳川波山、国学者・歌人黒沢翁満も名を連ねています。また、分柳の古希賀集「さるをかせ集」にも、近隣の門人だけでなく、身分を問わず全国の人々からも寄稿があり、故人を含めると実に350人を越えます。

俳諧という文芸が、忍城周辺の地域社会においても武士・町人・百姓といった身分の垣根を越えて嗜まれていたことを物語っています。
(郷土博物館 澤村怜薫)

俳壇

ぎょうだ はいだん

俳句応募方法
一人3句以内。住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、はがきまたは封書で広報広聴課まで。※毎月末日必着
なお、「一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

満月や終着駅の長ベンチ

【句評】 俳句で大事なことは語り過ぎないことである。掲句は満月と終着駅と長いベンチという名詞だけで動詞を使っていないので、かえって読者の想像を駆り立てる。このような光景は大方の人が体験していることであり、その中から余韻・余情が生まれる。俳句は難しい言葉を使わなくても情緒豊かな句ができるというお手本のような句である。

矢場 島田 健治

月見酒一合で足るかな

【句評】 酒好きな人に格好な季語は意外と多い。例えば年酒、暑氣払い、冷酒、熱燗、年忘れなど。月見酒もその一つである。作者は酒豪だったのだらう。しかし、寄る年波には勝てず、たった一合の酒で酔ってしまうようになった。残念な思いと安堵感が交錯していて味わい深い。俳句鑑賞の胆は言葉の裏側にある作者の思いを探ることである。

佐間 西岡 備中

稲光一瞬大河あらはるる

【句評】 稲光稲妻は秋になってから夜空に現れる閃光で稲光のように音や雨を伴うことではない。この光が稲を穿らすという信仰から生まれた季語である。閃光によって一瞬夜景が青白く浮き立つが、作者はその中に大河を見たという。いかにも大げさな詠嘆ではあるが、「俳諧といふは別の事なし上手に注許(そ)をつくる事なり」と芭蕉は説いている。

藤原町 斎藤雄次郎

- まだ少し詩魂あるらし赤まんな
かわたれの屏居の高み凌霄花
酷暑など吹き飛ばすかに夏祭り
髪切れば項まつる秋の風
初あらし禽を谷間に吹き落とす
やすらぎの里に集ふや合歓の花
夕日背に足早に行く蟻の列
- 門井町 宮田 淑尚
門井町 塚原 武夫
忍 大澤 由子
下忍 荒井 王子
棚田町 川鍋 幽覚
荒木 高澤よね子
谷郷 吉野 六郎
(三沢一水選評)